

彙 報

会 長 庄垣内 正 弘

2005年度第1回常任委員会

日 時：2005年4月23日（土）14:00～17:00

場 所：京都大学文学部1階会議室

出席者：庄垣内正弘（会長）、佐藤昭裕（事務局長）、上山あゆみ、金水 敏、
熊本 裕、中川 裕、日比谷潤子、林 徹、藤代 節、吉田 豊
オブザーバー：吉田和彦（編集委員長）、森 若葉（事務局長補佐）

[報告事項]

（1）広報委員会の発足について

4月1日付で広報委員会が発足した。委員長を上山あゆみ氏に委嘱し、委員を上田功、郡司隆男、後藤齊の各氏に委嘱した。上山氏の任期は2006年3月末まで、他の委員については、1名が2006年3月末まで、2名が2007年9月末までとする。

（2）各種委員会等からの報告

- ・編集委員会からの報告（吉田和彦委員長）
『言語研究』第126号、第127号が刊行された。現在、128号を編集集中である。4月17日に第1回編集委員会を行い、投稿規定の改定等について検討した。
- ・大会運営委員会からの報告（佐藤昭裕事務局長による代理報告）
4月9日に大会運営委員会を行い、第130回大会のプログラム（案）を作成した。
- ・広報委員会からの報告（上山あゆみ委員長）
ホームページ小委員会前委員長の松村一登氏と引継を行った。夏休み中にホームページの改訂を行いたい。
- ・東洋学（アジア研究）連絡協議会の報告（熊本裕氏）
2004年度第2回の委員会で参加が決まった東洋学（アジア研究）連絡協議会の設立大会（2004年12月11日、東方学会）に会長の委嘱により出席した。これは学術会議の制度改正により2005年9月末日をもって各研究連絡委員会が廃止されることにともない、新しい制度の中で東洋学関係の諸学会の連絡組織を設ける必要から設立されたものである。

設立大会には東洋学関係の 139 学会のうち 28 学会が集まった。

- (3) 平成 18 年度科学研究費補助金審査委員候補者の情報提供について
2004 年度第 2 回委員会の決定にもとづき 12 月末日を締切として委員より候補者の推薦を受けつけたところ 3 名の委員から推薦が寄せられた。常任委員会で審議した結果、その中から、すでに日本学術振興会のデータベースに入っていると推定される人を除き、5 名を候補とすることを決めた。うち 4 名の方から同意を得、情報を学術振興会に送付した。
- (4) 第 20 期日本学術会議会員候補者の情報提供について
2004 年度第 2 回委員会の決定に基づき、同委員会の席上で推薦された 79 名の個人会員の中から常任委員会を選んだ 10 名について 12 月 22 日付で学術会議宛に情報を送付した。詳細は『言語研究』127 号の「彙報」に報告した。
- (5) 会計監査について
4 月 16 日に梶茂樹、松村一登両会計監査委員による会計監査が行われ、適正と認められた。

[審議事項]

- (1) 2004 年度決算について
2004 年度決算について報告があり、了承された。[別表 1] 参照。
- (2) 2005 年度予算(案)について
2005 年度予算について常任委員会案を作成した。[別表 2] 参照。
- (3) 第 130 回大会(2005 年度春季大会)について
プログラムを審議し決定した。国際基督教大学の好意により会場使用料が全額免除になったことが報告された。
- (4) 第 131 回大会(2005 年度秋季大会)について
広島大学で開催予定の第 131 回大会の準備状況について検討した。
- (5) 個人情報保護法施行に係わる言語学会の対応について
4 月から施行された個人情報保護法は 5,000 件以上の個人情報を取り扱う事業者が対象であり、言語学会はこの法律の謂う事業者には当たらない。しかし、個人情報保護の重要性に鑑みて、早急に対応の体制を整えておくことが必要であると考えられる。以上により、1)「日本言語学会個人情報取扱規程」(案)、2) 会員に対する広報活動において用いるための「日本言語学会における個人情報の取扱方針について」(案)、3) 個人情報開示について会員の意思確認のために使用する「同意書」(案)、4) 中西印刷との間で取り交わすべき「個人情報保護に関する遵守事項確認書」(案)、を作成し、委員会に提出することとなった。

- (6) 大学及び短期大学の機関別認証評価に係わる専門委員候補者の推薦について

3月28日付けで大学評価・学位授与機構から表記の依頼があったが、推薦期限が4月28日と迫っていて時間的余裕がないので、常任委員会のメンバーから候補を選定して推薦することとした。審議の結果、金水敏、熊本裕、佐藤昭裕、日比谷潤子の4氏を推薦することが決まった。

- (7) 大会実行委員長、大会実行委員に関する規定について

現在、大会実行委員長についてポスターやプログラムには記載されるものの、言語学会会則等には明文化された規定がない。また大会の実施に当たり会場校で慣習的に使用されている実行委員という名称についても、今後大会を円滑に運営するために明文化することが望ましい。以上の趣旨に基づいて、関連の規定を整えることが提案され、常任委員会案を作成し、委員会に提案することとなった。

- (8) その他

- 投稿規定の改定について

編集委員会より、『言語研究』の投稿規定について、共同執筆の場合も全員が会員でなければならないという現行の規定を改定したいという提案があった。1) 筆頭著者のみが会員であればよい、2) 半数以上が会員であればよい、という二つの案を検討した結果、第1の案を委員会に提出することとなった。

- 大会での研究発表の応募を各カテゴリーにつき1人1件に限ることについて

表記の件について、大会運営委員会からの提案に基づき、会員に周知する方法を検討した。審議の結果、各種研究発表に関する規定は改定しないが、できるだけ多くの会員に発表の機会を提供するため、口頭発表ならびにポスター発表のそれぞれについて1人の人が筆頭発表者として応募できる件数を1件に限ることとし、これを大会運営委員会からのお願いとして、ホームページに掲載するとともに、大会プログラムに同封して周知することが決まった。

2005年度第1回委員会

日 時：2005年6月11日（土）12:00～14:30

場 所：国際基督教大学ディッフエンドルファー記念館西棟会議室

出席者：庄垣内正弘（会長）、佐藤昭裕（事務局長）、井出祥子、井上史雄、
 上山あゆみ、上野善道、荻野綱男、生越直樹、菊地康人、北原久嗣、
 金水 敏、久保智之、栗林 均、郡司隆男、酒井 弘、坂原 茂、坂本

勉, 坂本比奈子, 崎山 理, 清水克正, 城生佰太郎, 田窪行則, 玉岡
 賀津雄, 田村すゞ子, 柘植洋一, 辻 星児, 西光義弘, 野田尚史, 林
 徹, 早津恵美子, 原口庄輔, 日比谷潤子, 福井 玲, 堀 素子, 益岡
 隆志, 松森晶子, 峰岸真琴, 藪 司郎, 湯川恭敏, 吉田和彦, 吉田 豊
 (以上 41 名)

委任状 : 25 名

オブザーバー : 早田輝洋 (顧問), 梶 茂樹 (会計監査委員), 松村一登 (会計
 監査委員), 森 若葉 (事務局長補佐)

議事に先立ち, 大会実行委員長の日比谷潤子氏より挨拶があった。

[報告事項]

- (1) 平成 18 年度科学研究費補助金審査委員候補者の情報提供について
 2004 年度第 2 回委員会の決定にもとづき 12 月末日を締切として委員より候補者の推薦を受けつけたところ 3 名の委員から推薦が寄せられた。常任委員会で審議し, 最終的に 4 名の候補者について情報を日本学術振興会に送付した。
- (2) 第 20 期日本学術会議会員候補者の情報提供について
 2004 年度第 2 回委員会の決定に基づき, 同委員会の席上で推薦された 79 名の個人会員の中から常任委員会が 10 名の候補者を選び, 12 月 22 日付で日本学術会議宛に情報を送付した。詳細は『言語研究』127 号の「彙報」に報告した。
- (3) 広報委員会の発足について
 4 月 1 日付で広報委員会が発足した。委員長を上山あゆみ氏に委嘱し, 委員を上田功, 郡司隆男, 後藤齊, 上田功の各氏に委嘱した。上山氏の任期は 2006 年 3 月末まで, 他の委員は未定であるが, 2006 年 3 月末までが 1 名, 2007 年 9 月末までが 2 名である。広報委員会の発足により, ホームページの管理運営も今後同委員会が担当することになったが, これまでその任に当たってきたホームページ小委員会の松村一登委員長に会長より謝意が表された。
- (4) 会計監査について
 4 月 16 日に梶茂樹, 松村一登両会計監査委員による会計監査を行い, 適正と認められた。
- (5) 平成 17 年度科学研究費補助金 (研究成果公開促進費) の決定について
 4 月 15 日付で平成 17 年度科学研究費補助金 (研究成果公開促進費) の内定通知があった。金額は 260 万円である。

- (6) 第1回常任委員会について
4月23日(土)に本年度第1回の常任委員会を行った。
- (7) 大学及び短期大学の機関別認証評価に係わる専門委員候補者の推薦について
3月28日付で独立行政法人大学評価・学位授与機構より、大学及び短期大学の機関別認証評価に係わる専門委員候補者の推薦についての依頼があった。推薦の締め切りが4月28日と時間が切迫していることから、常任委員会で審議し、常任委員会メンバーの中から金水敏、熊本裕、佐藤昭裕、日比谷潤子の4氏を推薦することとしたという報告があり、了承された。
- (8) 各種委員会からの報告
- ・編集委員会(吉田和彦委員長)
『言語研究』第126号、第127号が予定通り刊行された。昨年度の投稿は45件、そのうち採用となったのは論文が7件、フォーラムが2件、書評が1件であった。現在128号を編集集中である。
 - ・大会運営委員会(柘植洋一委員長)
第130回大会について、口頭発表は期限内に届いた80件中44件(55%)、ポスター発表は同6件中5件(83%)が採択になった。また他にワークショップ1件が採択になった。口頭発表の採択率は当初6割をめどに考えていたが、運営委員会で審査したところ、このような結果になった。
 - ・「危機言語」小委員会(坂本比奈子氏)
6月10日に小委員会を開いた。第130回大会では、「抱合と複統合性」というテーマでワークショップを行う。第131回大会については、「危機言語」小委員会による特別展示を計画している。また、科研特定領域研究「環太平洋の言語」が3年の実施期間プラス2年の整理期間が過ぎ、完全に終了した。
 - ・夏期講座小委員会(荻野綱男小委員長)
6月10日に小委員会を開き、次回2006年夏の夏期講座について検討した。日程を8月21日(月)～26日(土)に決定した。実行委員長は風間伸次郎氏、副委員長は坂原茂氏。会場は東京大学駒場キャンパスである。
 - ・ホームページ小委員会(松村一登小委員長)
2月中に広報委員会との実質的な引継を行った。
 - ・広報委員会(上山あゆみ委員長)
ホームページの充実を図っていきたい。また、電子ジャーナル化について

ても情報を収集し、いろいろな方向で検討を行っている。

(9) 日本学会会議等の報告

・東洋学研究連絡委員会（崎山理氏）

東洋学研連は本年9月に解散するため、東洋学（アジア研究）連絡協議会を設立した。また2005年9月24日に「アジア人間科学への道—東洋学とアジア研究—」と題して、東洋学研連として最後のシンポジウムが行われる。また研連のメンバーにより、桜井由躬夫氏を代表に「グローバル化とアジア」という研究題目で科研費の基盤研究（C）を申請し、採択された。この基盤研究により、来年度特定研究に応募するための準備をしたい。

・語学・文学研究連絡委員会（早田輝洋氏）

5月19日に会議が行われた。研連として、学会会議の新しい制度の中でのありかたを検討している。

・東洋学（アジア研究）連絡協議会について（佐藤事務局長）

2004年度第2回委員会で参加を決めた同協議会の設立大会が2004年12月11日に東方学会で行われ、言語学会からは熊本裕氏が出席した。参加団体は2005年6月現在で39団体、年会費は2000円である。

(10) その他

日本学術振興会より、第2回（平成17年度）日本学術振興会賞受賞候補者の推薦についてという文書が届いたので回覧した。

[審議事項]

(1) 2004年度決算について

2004年度決算報告があり承認された。これは4月16日に行われた会計監査において適正と認められたものである。会計監査委員を代表して、梶茂樹氏より講評があった。[別表1]を参照。

(2) 2005年度予算（案）について

2005年度予算（案）を審議し、原案に従って決定した。[別表2]参照。

(3) 大会実行委員長に関する規定について

常任委員会提出の原案にもとづいて審議した結果、大会実行委員長および大会実行委員について明文化した規定を作る方針が決まり、第131回大会より実質的にこの規定の運用を始めることが承認された。文言については、なお次の委員会で検討することとなった。

(4) 投稿規定の改定について

『言語研究』の投稿規定を改定し、共著論文の場合には筆頭著者のみが会員であればよいとする案について、編集委員長より提案理由の説明が

あり、審議を行った。採決の結果、賛成多数で、原案通り承認された。
〔別記1〕参照。

(5) 個人情報保護法施行に係わる言語学会の対応について

4月より施行された個人情報保護法に関連して常任委員会より提案された1) 日本言語学会個人情報取扱規程(案)、2) 日本言語学会における個人情報の取扱方針について(案)、3) (個人情報開示についての会員の意思確認のための) 同意書(案)、4) (中西印刷との間で取り交わすための) 個人情報保護に関する遵守事項確認書(案)、について審議の結果、いずれも次回の委員会で継続審議することとなった。ただし、3) の同意書については、今年度行われる選挙に際し名簿作成作業等のために必要であることから、会員に対して言語学会の個人情報取扱規定に従うことの誓約を求めた部分を削除した上で、実質的に使用を始めることが承認された。

〔別記1〕投稿規定の改定

(旧)

1. 投稿は会員に限る。

(新)

1. 投稿は会員に限る。ただし、共著の場合は筆頭著者が会員であればよい。

〔別表1〕2004年度日本言語学会決算

自 2004年4月 至 2005年3月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	14,074,000	刊 行 費	4,778,277
雑 誌 売 上	1,164,100	発 送 費	405,715
科学研究費補助金	2,500,000	編 集 費	417,680
預 金 金 利	1,109	事 務 委 託 費	4,284,000
大会関係収入	1,972,000	大 会 関 係 費	3,624,105
雑 収 入	38,535	委 員 会 費	215,615
基金からの繰入	1,000,000	常 任 委 員 会 費	386,448
夏期講座会計より	3,100,207	大 会 運 営 委 員 会 費	870,540
		「危機言語」小委員会費	219,933
		夏期講座小委員会費	175,465
		夏 期 講 座 費	1,500,000
		C I P L 負 担 金	100,000
		東洋学研連寄付金	10,000
		通 信 費	448,923
		事 務 局 費	738,022
		消 耗 品 費	180,760
		ホームページ小委員会費	101,010
		雑費	32,960
		(基金への繰入)	
		選挙関係積立金	300,000
		名簿関係積立金	700,000
		夏期講座積立金	2,000,000
		危機言語プロジェクト積立金	400,000
		記念大会積立金	1,000,000
		e-ジャーナル積立金	1,000,000
収 入 合 計	23,849,951	支 出 合 計	23,889,453
前 期 繰 越 金	1,582,972	次 期 繰 越 金	1,543,470
計	25,432,923	計	25,432,923

〈特別会計〉

*詳細は [別記資料] 夏期講座決算報告 参照

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
夏 期 講 座 収 入	6,096,000	夏 期 講 座 支 出	4,495,793
言語学会事務局から入金	1,500,000	言語学会事務局へ送金	3,100,207
収 入 合 計	7,596,000	支 出 合 計	7,596,000

◇収入内訳（単位：円）

会費

国内個人会員	11,940,500
国内維持会員	140,000
国内学生会員	759,000
国内団体会員	847,000
国内賛助会員	30,000
在外個人会員	283,000
在外学生会員	66,000
在外団体会員	8,500
合 計	14,074,000

雑誌売上

三省堂書店	100,800
松香堂書店	781,000
(取り次ぎ業務委託)	
丸善	189,000
その他書店	37,800
事務局販売	55,500
合 計	1,164,100

科学研究費補助金 2,500,000

預金金利 1,109

大会関係収入

128 回大会出店料（13 店）	130,000
129 回大会出店料（3 店）	30,000
128 回大会予稿集売上	1,229,500
129 回大会予稿集売上	526,000
111～128 回大会予稿集売上	56,500
合 計	1,972,000

雑収入

予稿集コピーサービス等	5,420
125号別刷代	27,405
126号別刷代	5,710
合 計	38,535

基金からの繰入

2002年度夏期講座積立金より	600,000
2001年度夏期講座積立金より	400,000
合 計	1,000,000

夏期講座会計より 3,100,207

※夏期講座会計より事務局へ
 [別記資料] 夏期講座決算報告 参照

◇支出内訳（単位：円）

刊行費

印刷部数 各号共に2,400部

内 訳	126号 (211p.)	127号 (242p.)	計 (453p.)
印刷費	2,203,740	2,515,590	4,719,330
抜刷代	20,685	38,262	58,947
計	2,224,425	2,553,852	4,778,277

*割付・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』送料	126号	171,595
(追加送料は含まない)	127号	234,120
合 計		405,715

編集費

通信費	44,300
会議費	26,420
旅費	158,960
アルバイト費	188,000
合 計	417,680

事務委託費

4,284,000

2004年4月分～2005年3月分
日本言語学会と中西印刷株式会社により
交わされた事務委託内容の覚書に基づく
業務の代金

大会関係費

内 訳	第 128 回	第 129 回	計
プログラム印刷費	139,650	139,650	279,300
ポスター印刷費	73,500	73,500	147,000
出欠葉書印刷費	23,100	23,625	46,725
プログラム発送費	202,570	211,340	413,910
大会費	492,663	500,587	993,250
予稿集印刷費	824,250	722,190	1,546,440
	(700部発行)	(550部発行)	
宿泊調査票	—	21,000	21,000
講師謝金	102,000	70,000	172,000
傘袋	4,480	—	4,480
合 計	1,862,213	1,761,892	3,624,105

委員会費

通信費	30,775
会議費	184,840
合 計	215,615

常任委員会費

通信費	0
会議費	5,308
旅費	381,140

合 計	386,448
-----	---------

大会運営委員会費

会議費	48,000
旅費	822,540

合 計	870,540
-----	---------

「危機言語」小委員会費

通信費	6,540
会議費	0
旅費	189,760
その他（アルバイト費，印刷費等）	23,633

合 計	219,933
-----	---------

夏期講座小委員会費

通信費	105
会議費	16,000
旅費	159,360

合 計	175,465
-----	---------

夏期講座経費	1,500,000
--------	-----------

※事務局より夏期講座会計へ
[別記資料]夏期講座決算報告 参照

CIPL 負担金	100,000
----------	---------

東洋学研連寄付金	10,000
----------	--------

通信費

切手購入	93,350
銀行 FAX 料金	26,145
会費請求・督促状送付	43,400
カード手数料・送金手数料	80,365
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー発送	32,650
発表採否通知・司会者依頼状等大会関係送料	147,770
その他（文科省提出書類発送等）	25,243
合 計	448,923

事務局費

通信費	15,150
旅費	74,120
消耗品費	6,186
事務局長費（含む事務局長補佐経費）	480,000
その他（アルバイト費、校正費等）	22,890
会議費（会計監査）	139,676
合 計	738,022

消耗品費

文房具（領収証等）	12,760
振替用紙・会費納入願い	73,500
封筒印刷費	94,500
合 計	180,760

ホームページ小委員会費

通信費	210
ホームページ更新費	100,800
合 計	101,010

雑費

金田一先生 供花代	15,750
『言語研究』第125号別刷追加分	17,010
両替手数料	200
合 計	32,960

(基金へ繰入)

選挙関係積立金 (みずほ銀行定期預金口座)	300,000
名簿作成積立金 (みずほ銀行定期預金口座)	700,000
夏期講座積立金 (内600,000はみずほ銀行定期預金口座, 1,200,000*はみずほ銀行普通預金口座, 200,000*は郵便振替口座)	2,000,000
危機言語プロジェクト積立金 (郵便振替口座)	400,000*
記念大会積立金 (郵便振替口座)	1,000,000*
e-ジャーナル積立金 (郵便振替口座)	1,000,000*

*会計監査終了後みずほ銀行普通預金口座より1,200,000円を、郵便振替口座より合計2,600,000円を、京都銀行定期預金口座に預け入れ、6月7日現在で同口座の残高は3,800,000円。

◇ 2004 年度決算 予算・実績対照表

収入

(単位：円)

科 目	予 算	実 績	対予算差異
会 費	14,250,000	14,074,000	△ 176,000
雑 誌 売 上	1,200,000	1,164,100	△ 35,900
科学研究費補助金	2,500,000	2,500,000	0
預 金 金 利	2,000	1,109	△ 891
大会関係収入	1,500,000	1,972,000	472,000
雑 収 入	850,000	38,535	△ 811,465
基金からの繰入	1,000,000	1,000,000	0
夏期講座会計より		3,100,207	3,100,207
収 入 合 計	21,302,000	23,849,951	2,547,951
前 期 繰 越 金	1,582,972	1,582,972	0
合 計	22,884,972	25,432,923	2,547,951

支出

(単位：円)

科 目	予 算	実 績	対予算差異
刊 行 費	7,000,000	4,778,277	2,221,723
発 送 費	500,000	405,715	94,285
編 集 費	600,000	417,680	182,320
事 務 委 託 費	4,284,000	4,284,000	0
大 会 関 係 費	3,200,000	3,624,105	△ 424,105
委 員 会 費	250,000	215,615	34,385
常 任 委 員 会 費	500,000	386,448	113,552
大 会 運 営 委 員 会 費	850,000	870,540	△ 20,540
「危機言語」小委員会費	300,000	219,933	80,067
夏期講座小委員会費	200,000	175,465	24,535
夏 期 講 座 費	1,500,000	1,500,000	0
C I P L 負 担 金	100,000	100,000	0
東洋学研連寄付金	0	10,000	△ 10,000
通 信 費	500,000	448,923	51,077
事 務 局 費	700,000	738,022	△ 38,022
消 耗 品 費	250,000	180,760	69,240
ホームページ小委員会費	300,000	101,010	198,990
雑 費	100,972	32,960	68,012
予 備 費	150,000	0	150,000
選 挙 関 係 積 立 金	300,000	300,000	0
名 簿 作 成 積 立 金	700,000	700,000	0
夏 期 講 座 積 立 金	600,000	2,000,000	△ 1,400,000
危機言語プロジェクト積立金	0	400,000	△ 400,000
記 念 大 会 積 立 金	0	1,000,000	△ 1,000,000
e-ジャーナル積立金	0	1,000,000	△ 1,000,000
支 出 合 計	22,884,972	23,889,453	△ 1,004,481
次 期 繰 越 金	0	1,543,470	△ 1,543,470
合 計	22,884,972	25,432,923	△ 2,547,951

◇資産勘定

(単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
本部事務局		前受会費	
現金	903,903	国内個人	132,000
みずほ銀行		国内学生	52,000
普通預金口座	35,791	国内団体	7,000
郵便振替口座	3,174,190	国内維持	10,000
		在外個人	10,000
事務局		在外維持	10,000
事務局口座	201,797	未払金**	3,144,972
常任委員会口座	314,702		
仮払金*	279,059	次期繰越	1,543,470
計	4,909,442	計	4,909,442

*2004年度「危機言語」小委員会、ホームページ小委員会残金返金が年度内に
なされなかったため仮払金として処理。

**未払金は当該年度内に支払われるべき費用が支払われなかった場合の科目。
2004年度決算の未払金の内訳は下記の通り。

内 訳	金 額
『言語研究』第127号印刷費	2,515,590
『言語研究』第127号発送費	234,120
『言語研究』第127号別刷印刷費	38,262
事務委託費3月分	357,000
総 合 計	3,144,972

基金 決算

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計（前期繰越）	7,450,000	一般会計へ支出	1,000,000
一般会計より繰入	5,400,000		
収入合計	12,850,000	支出合計	1,000,000
		次期繰越金	11,850,000
計	12,850,000	計	12,850,000

基金 資産勘定

(単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	8,050,000	積立金	11,850,000
みずほ銀行普通預金口座	1,200,000*		
郵便振替口座	2,600,000*		
計	11,850,000	計	11,850,000

*会計監査終了後京都銀行定期預金口座に預け入れ、6月7日現在で同口座残高3,800,000円。

○基金内訳

(単位：円)

2004年度記念大会積立金	1,000,000
2004年度夏期講座積立金	2,000,000
2004年度危機言語プロジェクト積立金	400,000
2004年度選挙関係積立金	300,000
2004年度名簿作成積立金	700,000
2004年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
2003年度記念大会積立金	1,200,000
2003年度夏期講座積立金	600,000
2003年度選挙関係積立金	300,000
2003年度名簿作成積立金	700,000
2003年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
2002年度記念大会積立金	400,000
2001年度記念大会積立金	400,000
2000年度記念大会積立金	400,000
2000年度危機言語プロジェクト積立金	200,000
1999年度記念大会積立金	500,000
1998年度記念大会積立金	250,000
1998年度危機言語プロジェクト積立金	500,000
計	11,850,000

〔別記資料〕 夏期講座決算報告

収 入

言語学会通常会計より	1,500,000
受講料	5,910,000
懇親会会費	184,000
ハンドアウト別売り	2,000
合 計	7,596,000

支 出

1 講師旅費（関東6名＋インフォーマント1名）	192,080
2 講師旅費（関西6名）	47,460
3 講師謝礼	1,020,000
4 ポスター印刷費	151,500
5 小委員・実行委員旅費	9,000
6 アルバイトなど	560,000
7 アルバイト学生交通費補助	10,000
8 消耗品	22,386
9 ハンドブック代	402,612
10 宿泊費	614,300
11 昼食・夕食補助	317,000
12 交通費（コープイン京都ーキャンパスプラザ京都）	31,200
13 会場費（キャンパスプラザ京都）	399,450
14 ナイトセッション会場費（コープイン京都）	48,300
15 ウェルカムパーティ代	658,000
16 雑支出（振込手数料）	12,505
言語学会通常会計に送金	3,100,207
合 計	7,596,000

〔別表2〕2005年度日本語学会予算

自 2005年4月 至 2006年3月

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	14,250,000	刊 行 費	7,000,000
雑 誌 売 上	1,200,000	発 送 費	500,000
科学研究費補助金	2,600,000	編 集 費	600,000
預 金 金 利	1,000	事 務 委 託 費	4,284,000
大会関係収入	1,600,000	大 会 関 係 費	3,200,000
雑 収 入	50,000	委 員 会 費	250,000
基金からの繰入	2,000,000	常 任 委 員 会 費	500,000
		大 会 運 営 委 員 会 費	850,000
		広 報 委 員 会 費	500,000
		「危機言語」小委員会費	300,000
		夏期講座小委員会費	200,000
		C I P L 負 担 金	110,000
		東洋学研連寄付金	10,000
		選 挙 関 係 費	900,000
		名 簿 作 成 費	2,100,000
		通 信 費	500,000
		事 務 局 費	700,000
		消 耗 品 費	250,000
		雑 費	90,470
		予 備 費	100,000
		<基金への繰入>	
		危機言語プロジェクト積立金	300,000
取 入 合 計	21,701,000	支 出 合 計	23,244,470
前 期 繰 越 金	1,543,470	次 期 繰 越 金	0
計	23,244,470	計	23,244,470

2005 年度第 1 回「危機言語」小委員会

日 時：2005 年 6 月 10 日（金）14:00～17:00

場 所：麗澤大学東京センター

出席者：遠藤 史，奥田統己，梶 茂樹，金子 亨，呉人 恵，坂本比奈子，
佐々木冠，笹間史子，白井聡子，田村すゞ子，中山俊秀，宮岡伯人，
村崎恭子，渡辺 己

[議事と報告]

- (1) 第 131 回大会における「危機言語」小委員会による特別展示について
取りまとめは中山俊秀氏，参加者としては本委員会委員の佐々木冠氏，
遠藤史氏，白井聡子氏以外に，千田俊太郎氏（学術振興会特別研究員・
東京大学）に依頼することに決定した。
- (2) 2006 年度言語学夏期講座「フィールド言語学」の担当講師推薦につい
て
2006 年度夏期講座実行委員長の風間伸次郎氏からの依頼を受け，講師
を募ったところ，田村すゞ子氏（アイヌ語），また田村すゞ子氏が都合
が悪くなった場合には，村崎恭子氏（アイヌ語）が来年度の担当を希望
する由，述べられた。したがって，小委員会としては田村すゞ子氏を優
先的に推薦することに決定した。
- (3) 第 130 回大会における「危機言語」小委員会によるワークショップにつ
いて
ワークショップ「抱合と複統合性—フィールドからみえてくる言語の多
様性—」の準備状況について，司会担当の渡辺己氏から報告があった。
- (4) 「危機言語」小委員会の今後の方針について
今年度をもって宮岡伯人委員長の任期が終了することを受けて，より多
くの若手研究者の投入の必要性など「危機言語」小委員会の今後の方針
について話し合われた。

2005 年度第 1 回夏期講座小委員会

日 時：2005 年 6 月 10 日（金）14:00～18:00

場 所：国際基督教大学教育研究棟 202 号室

出席者：坂原茂，西光義弘，荻野綱男，堀川智也，三原健一，風間伸次郎，
日比谷潤子

[議題]

- (1) 夏期講座 2006 に関すること

- 2006年8月21日（月）～26日（土）に東京大学教養学部を会場として開催することになった。実行委員長・風間伸次郎氏の他に、副実行委員長として坂原茂氏が加わるようになった。
 - 講座は3会場並行で行い、1日に4コマを設定するので、開設科目は12科目、講師は12人となる。
 - 各開設科目名とそれぞれの講師予定者複数を決め、順次夏期講座の講師を依頼することになった。
 - 参加者数、教室の大きさ、ナイトセッション、懇親会、宿泊場所などの大まかな予定を決めた。
- (2) 6月11日の日本言語学会委員会での報告事項の検討
夏期講座2006の概略について報告する。

第 130 回大会

期 日 2005 年 6 月 11 日 (土)・6 月 12 日 (日)

会 場 国際基督教大学

第 1 日 (6 月 11 日)

開会挨拶

開会の辞

会 長

開催校挨拶

鈴木 典比古

公開シンポジウム

多文化社会におけるバイリンガリズム

Bilingualism in Multicultural Settings

司会 John C. Maher

パネリスト 木村護郎キリストフ 「西ヨーロッパにおける少数言語バイリンガリズムの展望と課題」

James W. Tollefson 「Language Policy and Bilingualism in South-East Asia」

生越 直樹 「在日コリアンの言語使用」

藤田ラウンド幸世 「日本の学校におけるバイリンガルの子ども」

第 2 日 (6 月 12 日)

口頭発表・ポスター発表・ワークショップ

◦ A 会場

司会 益岡 隆志

(A 1) 10:00～ さ入れ言葉の性質について 佐野 真一郎

(A 2) 10:35～ 助数詞の使用に関する一考察 濱野 寛子
一対象の捉え方を中心に一

(A 3) 11:10～ 完了助動詞の選択：中古日本語の be 動詞文 平田 一郎

司会 杉岡 洋子

(A 4) 12:40～ 前置詞や格などの機能語の意味変化において 山口 和之
てみられる普遍的制約

(A 5) 13:15～ 日本語の複合動詞における意味的制約 浅尾 仁彦
について

ワークショップ 14:00～16:00

抱合と複統合性—フィールドからみえてくる言語の多様性

企画者 日本言語学会「危機言語」小委員会委員長：宮岡 伯人

司会者 渡辺 己

抱合と複統合性：概観	渡辺 己
チュクチ語の抱合と複統合性	呉人徳司
ヌートカ語の語彙的接尾辞と複統合性	中山俊秀
エスキモー語からみた複統合性の諸問題	宮岡伯人

○ B会場

司会	梶 茂樹	
(B 1)	10:00～ ノルウェー語ピッチアクセント再考	三村 竜之
(B 2)	10:35～ 韓国語のアクセントタイプと分布	孫 在賢
(B 3)	11:10～ 韓国語の慶尚南道方言のアクセント体系 —密陽方言を中心に—	姜 英淑
司会	渋谷 勝己	
(B 4)	12:40～ スリランカ手話における ネームサインの音韻的特徴	加納 満
(B 5)	13:15～ ポライトネスの観点からの	北上 光志
(B 6)	現代ロシア語形容詞長短語尾形の違い	
司会	服部 匡	
(B 7)	14:00～ Japanese Adjectives in Comparative Form	小田 登志子
(B 8)	14:35～ 「序列の逆転」を表す程度副詞群の 意味論と語用論：「かえって」、「むしろ」、 「よっぽど」を中心として	澤田 治
(B 9)	15:10～ 現代日本語における動詞連用形の 形態統語論的分析—拡散形態論の観点から—	田川 拓海

○ C会場

司会	広瀬 友紀	
(C 1)	10:00～ Psycholinguistic Investigation of Subject Incorporation in the Processing of Turkish Active Sentences with Transitive Verbs	玉岡 賀津雄 栗林 裕 酒井 弘
(C 2)	10:35～ 日本語における主語と目的語の統語構造上 の位置について：文解析実験の観点から	小泉 政利 木村 直樹 金 情浩
(C 3)	11:10～ 日本語他動詞構文の獲得 —動詞一般的ナ知識への段階的発達—	三浦 優生
司会	菊地 康人	
(C 4)	12:40～ 日本語の語りにおける指示表現 —その形式の分布と選択要因—	青木 玲子 藤井 聖子
(C 5)	13:15～ コーパスを用いた「が／の」交替に	南部 智史

関する定量的分析

- 司会 田端 敏幸
- (C 6) 14:00～ 日本語と英語におけるイントネーション・作田 千 絵
 ユニット—日本語発話には本当に断片的か?—藤井 聖子
- (C 7) 14:35～ 日本語動詞形態論における韻律的単一性 佐々木 冠
- (C 8) 15:10～ Asymmetric Specification in the Laryngeal 白石 英 才
 Contrast of Nivkh
- D 会場
- 司会 生越 直樹
- (D 1) 10:00～ 現代朝鮮語の意志形に関する一考察： 平 香 織
 ‘-lkey’, ‘-llay’ を中心として
- (D 2) 10:35～ 現代モンゴル語 “副動詞 +bayl-” 形の 松岡 雄 太
 アспект
- (D 3) 11:10～ トルコ語の時制／相／法接辞と 吉村 大 樹
 疑問詞 *mi*, 人称接辞との相対的順序
- 司会 澤田 英夫
- (D 4) 12:40～ アムドチベット語・共和方言の完了 海老原 志穂
 を表す助動詞
- (D 5) 13:15～ チノ語の疑問助詞について 林 範 彦
- 司会 坂原 茂
- (D 6) 14:00～ 想定どおりの事態に対する感嘆文 金子 真
- (D 7) 14:35～ 日本語・ベンガル語の待遇表現に Uddin, Md. Monir
 関する対照研究：二人称を中心に
- 15:10～ サルデーニャ語におけるスペイン語 金澤 雄 介
 からの借用語の相対的年代
- E 会場
- 司会 桑原 和生
- (E 1) 10:00～ The Sixth Pattern of COMP Alternation in 牧 秀 樹
 Modern Irish (presented in English) Dónall P.Ó Baoill
- (E 2) 10:35～ Intermediate Agree and Wh-scope 宗 像 孝
- (E 3) 11:10～ English *Wh*-exclamatives and the Role of 小野 創
 T-to-C in *Wh*-clauses (presented in English) 藤井 友比呂
- 司会 三藤 博
- (E 4) 12:40～ a N 総称文と every N 総称文 森 香 奈 絵
- (E 5) 13:15～ 等位接続構文の並行的解釈 戸次 大 介
 川 添 愛

- 司会 小泉 政利
- (E 6) 14:00~ Raising as Sharing (presented in English) 原田 なをみ
 (E 7) 14:35~ On “XP” in Heavy XP Shift 塩原 佳世乃
 (E 8) 15:10~ QR/Scrambling と数量詞作用域と 外池 滋生
 日英語の節構造
- F 会場
- 司会 井上 優
- (F 1) 10:00~ ハンガリー語の副動詞構文の形成条件 大島 一
 について
- (F 2) 10:35~ サオ語（台湾中部）における否定表現 新居田 純野
 (F 3) 11:10~ 否定極性表現と否定生格のロシア語目的語制御構文における“長距離”依存
 一節のマージャ可能性とアспект
 調和原理とにもとづく分析— Evseeva Elena
- 司会 町田 健
- (F 4) 12:40~ バンティック語の malefactive verb 内海 敦子
 (F 5) 13:15~ パラオ語の完了動詞と非完了動詞の対立 下地理 則
 一他動性の観点から
- 司会 樋口 康一
- (F 6) 14:00~ ツツバ語の舌唇音 内藤 真帆
 (F 7) 14:35~ 原オーストロネシア語における接尾辞 崎山 理
 *-an の機能

ポスター発表 11:40~13:40

◦ G 会場

- 語順の意味的動機付けを求めて 李 在鎬
 井佐原 均
- 味覚を表すオノマトベの音象徴的意味分析 坂本 真樹
 千葉 明日香
- 日本語の取立て助詞とフォーカス，一般化 中村 ちどり
 量子子 内藤 真帆
- オセアニア諸語に見られる音変化の考察 千家 愛子
 一オセアニア祖語との比較から— 佐藤 寛子
- 事象関連 fMRI による語彙，統語，意味の 祐伯 敦史
 脳機能マッピング研究 丸山 啓
 中井 悟

◇ 退 会

国内個人会員	102名
在外個人会員	2名
国内団体会員	4名
国内学生会員	10名



◇ 本誌は、独立行政法人日本学術振興会平成17年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。